平成２６年度シラバス

科　目　名	地球環境学	科目分類	■第１グループ	
			経済	■選択
英文表記		開講年次	■１年後期	
ふりがな	むらなか　たかし	修得単位	２　単位	
担当者名	村中　孝司			
授業の到達目標及びテーマ	我々人類が直面している地球環境問題･生物多様性問題について､人間社会の視点から学ぶ。			
準備学習	高等学校の地理歴史、公民、理科などに登場した地球環境問題、公害問題、農業・食糧問題、生物多様性の問題を復習しておくこと。			

【授業概要】2011 年、世界人口は 70 億人を突破した。今世紀末には 90 億人を超えると予測されている。一方、地球上の資源には限りがある。私たち人類はその限りある資源の中で生きていかなくてはならない。地球上のエネルギー資源、食糧生産の場である農地にも限りがある。講義では、地球環境問題、生物多様性、農業問題など、人間生活や社会に密接に関わりのある環境問題について紹介する。

授業計画	
第１回	ガイダンス　環境問題とは何か
第２回	環境問題の歴史と公害問題：局所的な環境問題
第３回	地域の環境問題：水域の富栄養化、水質汚濁
第４回	地球環境問題①：地球温暖化
第５回	地球環境問題②：オゾン層破壊
第６回	地球環境問題③：海洋中への化学物質の排出と生物濃縮、環境影響評価
第７回	生物多様性①：生物多様性とは何か
第８回	生物多様性②：生物多様性を脅かす 3 つの要因
第９回	生物多様性③：生物多様性と生態系サービス
第 10 回	循環型社会の構築①：エネルギー、3R、ゴミ問題
第 11 回	循環型社会の構築②：江戸時代に見る循環型社会
第 12 回	環境問題と社会①：経済と環境問題
第 13 回	環境問題と社会②：環境の経済価値と評価
第 14 回	食糧と農業問題①　食糧生産の危機と気候変動
第 15 回	食糧と農業問題②　フードマイレージ
第 16 回	試験

テキスト	配付資料
参考文献	講義中に紹介する
評価の方法	試験、レポート（課題）提出
学生へのメッセージ	環境問題を知ること・理解することは、私たちが生きていくためそのものです。

平成２６年度シラバス

科　目　名	地域づくり論	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済･観光　□必修　■選択
英文表記	Regional　Economy	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	のぐち　ひでゆき	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中
担当者名	野口　秀行	修得単位	２　単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕観光による地域の再生 〔テーマ〕成熟化した日本経済とクール・ジャパン		
準備学習	・事前配布のプリントに目を通しておくこと		

【授業概要】わが国の新たな輸出産業は「日本の文化」だといわれる。世界が注目するクール・ジャパンとは何か？地域の再生に観光はどう寄与していくのかを学ぶ。また観光産業の経済的側面を事例分析を中心に学ぶ。

授業計画	
第１回	地域とは何か
第２回	地域協働とコミュニティ再生（１）～川端（かばた）を事例として
第３回	地域協働とコミュニティ再生（２）～沖縄国頭村の共同店舗を事例として
第４回	世界的な潮流としてのソーシャルビジネス（社会起業）
第５回	欧州のソーシャルビジネスを支えるソーシャルファイナンス（意思のあるお金）
第６回	我が国のソーシャルビジネス（社会起業）
第７回	我が国のソーシャルビジネスを支えるソーシャルファイナンス（意思のあるお金）
第８回	新潟の美少女図鑑と地方発のニュービジネスの展開
第９回	香川県高松市における地域のブランド化戦略
第 10 回	地域経済を支える老舗企業～エノキアン協会
第 11 回	震災復興と地域協働（１）～コミュニティの再生に向けて
第 12 回	震災復興と地域協働（２）～民事信託を活用した街の再生
第 13 回	秋田におけるＮＰＯ・コミュニティビジネス・スモールビジネス
第 14 回	秋田の地域づくりとは～秋田のＮＰＯ・コミュニティビジネスが抱える問題
第 15 回	秋田の地域づくりを再考する～現状と課題そしてその解決方策
第 16 回	期末試験

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。
学生へのメッセージ	本講義では、観光による地域づくりとそれを支えるシステムについて学びます。

平成２６年度シラバス

科　目　名	経済学史Ⅱ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
英文表記	The History of Economic Thought Ⅱ	開講年次	■１年後期	
ふりがな	しまだ　こうや	修得単位	２単位	
担当者名	嶋田　耕也			
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕ケインズを中心に現代経済学を理解しよう。 〔テーマ〕ケインズ理論の革新点。			
準備学習	ケインズ、シュンペーター、レオンチェフそして新古典派を理解するためには、私たちの周りの現実に関心を持たなければなりません。			

【授業概要】ケインズによって現代の経済政策、および管理通貨制度の本質を、シュンペーターによって資本主義発展のダイナミズムを、レオンチェフによって産業間の結びつきを理解しよう。

授業計画
第１回　ケインズとその時代
第２回　ケインズ理論　１
第３回　ケインズ理論　２
第４回　ケインズ理論　３
第５回　ケインズ理論　４
第６回　シュンペーターの経済理論　１
第７回　シュンペーターの経済理論　２
第８回　ケネー、マルクス、そしてレオンチェフ
第９回　産業連関論の概要
第 10 回　行列式　１
第 11 回　行列式　２
第 12 回　産業連関論　１
第 13 回　産業連関論　２
第 14 回　産業連関論　３
第 15 回　経済学の歴史のまとめ
第 16 回　テスト

テキスト	使用せず。プリント配布、および板書
参考文献	授業時に指示します。
評価の方法	出席回数とテストの点数
学生へのメッセージ	20、21 世紀は親ケインズか反ケインズかの時代です。

平成２６年度 シラバス

科　目　名	財政学入門	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
			法律	□必修　■選択
英文表記	Introduction to Public Finance	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年	
ふりがな	かべや　のぶゆき	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	壁谷　順之	修得単位	２　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕財政と税制の基本を理解できるようになること。 〔テーマ〕　財政の役割、租税原則、税制度、地方財政など。			
準備学習	他の経済学科目（マクロ経済学、ミクロ経済学など）と合わせて履修すると、理解力が深まると考えている。			
【授業概要】	本講義は、財政学を学ぶための基礎的な概念や仕組みとして位置付けている。私たちが新聞やテレビで知るニュースの多くは、財政学と関わりがある。例えば、消費税はなぜ増税されるのか。こうした身近なテーマをイメージしながら、関心を深めていきたい。			

授業計画
第１回　財政とは何か、日本の財政の現状
第２回　資源配分機能
第３回　所得再分配機能
第４回　経済安定機能
第５回　地方財政
第６回　日本の税体系
第７回　租税原則①：公平性
第８回　租税原則②：中立性
第９回　租税原則③：簡素の原則
第 10 回　所得税
第 11 回　消費税
第 12 回　法人税
第 13 回　社会保障
第 14 回　NPO と NGO
第 15 回　まとめ
第 16 回　定期試験

テキスト	林宏昭・玉岡雅之・桑原美香『入門　財政学』中央経済社、2008 年。
参考文献	上村敏之『コンパクト　財政学（第2版）』新世社、2013 年。
評価の方法	筆記試験、出席、その他受講態度等から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	公務員試験を目指す者、財政や税金に関心のある者などの受講者を想定している。

平成２６年度 シラバス

科　目　名	地方財政論	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
				□必修　□選択
英文表記	Local Public Finance	開講年次	□１年 ■２年 □３年 □４年	
ふりがな	かべや　のぶゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	壁谷　順之	修得単位	２　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕地方財政の現状や課題について、理解できるようになること。 〔テーマ〕　国と地方の役割、地方分権、地方税、地方交付税など。			
準備学習	１年次開講科目「財政学入門」を履修済みであることが望ましい。 ２年次開講科目「財政学」と合わせて履修すると、理解力が深まると考えている。			
【授業概要】	本講義では、地方自治体の経済活動を中心に見ていく。私たちの日常生活において、地方自治体の果たす役割は大きい。地方自治体が安定した公共サービスを提供するための仕組みはどうなっているのか。それを理解するには、現状と課題を把握し、自ら考えることができるようになることが大切である。			

授業計画
第１回　地方財政の機能：地方財政とは何か、地方財政の役割
第２回　地方財政の仕組みと課題：地方財政計画、地方分権
第３回　地方公共支出の経済学：最適供給、生産と予算の効率性
第４回　地方財政の動向：歳出構造、歳入構造、財政指標
第５回　地方税原則と地方税体系
第６回　地方税制度の現状と改革の方向①：個人住民税、地方の法人課税
第７回　地方税制度の現状と改革の方向②：地方消費税、固定資産税
第８回　社会保障制度①：少子高齢化、医療制度、介護保険制度
第９回　社会保障制度②：生活保護制度、保育制度
第 10 回　地方交付税
第 11 回　国庫支出金
第 12 回　地方債
第 13 回　公営企業と民間活力：第三セクター、独立行政法人、PFI
第 14 回　道州制の議論
第 15 回　まとめ
第 16 回　定期試験

テキスト	林宏昭・橋本恭之『入門　地方財政（第3版）』中央経済社、2014 年。
参考文献	伊多波良雄・塩津ゆりか・原田禎夫『現代社会の財政学』晃洋書房、2009 年。
評価の方法	筆記試験、出席、その他受講態度等から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	公務員試験を目指す者、財政や税金に関心のある者などの受講者を想定している。

平成２６年度シラバス

科　目　名	人的資源管理論	科目分類	■第１グループ□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
				□必修　□選択
英文表記	Human Resource Management	開講年次	□１年■２年□３年□４年	
ふりがな	イ　チョン　ミン	開講期間	□前期■後期□通年□集中	
担当者名	李　廷　珉	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕この講義を受講し就職活動に活かそう！ 〔テーマ〕人材マネジメントー企業はどんな人材を必要としているかー			
準備学習	講義資料（講義時に配布）を事前に読んでおくことが望ましい。			

【授業概要】この講義では、道具・制度・資格（就活で言うと、何とか書き方とかなんとかやり方とかという）などのいわば道具万能論的な考え方は人材の成長に結びつきにくいものと考える。それよりもこの講義で重視したいのは、道具などを考える前に知っておかなければならない基礎的な考え方、つまり経営という視点と人という視点である。現場の企業担当者が就活生の面接試験で聞きたいと考えるのはこの二つ以外にないといっても過言ではない。だから、我々は企業担当者の聞き方までをも考えて戦略的に答える必要がある。私に興味があるかないかではなく、その企業は将来的に成長するのか破滅するのかについて、私たちが自ら判断する。この講義は、したがって、就職活動をかなり意識して講義を進行することになる。

授業計画
第１回　人材マネジメントの考え方
第２回　人材マネジメントの活動
第３回　人的資源の獲得
第４回　経営戦略と人材育成
第５回　リーダー人材の育成
第６回　人材評価の考え方
第７回　評価の公平性
第８回　人材の処遇の与え方・考え方
第９回　インセンティブ制度の設計
第 10 回　人材フローの考え方
第 11 回　内部労働市場
第 12 回　人材の尊重（稲盛和夫他）
第 13 回　雇用の外部化
第 14 回　非正規従業員の人材マネジメント
第 15 回　雇用構造の変化と企業の競争力
第 16 回　期末試験

テキスト	講義資料を配布する
参考文献	講義中に紹介する
評価の方法	定期試験＋授業態度(発言カード:3 分の 2 以上の出席が単位認定の条件)
学生へのメッセージ	人は本をつくり、本は人をつくる。

平成２６年度 シラバス

科　目　名	金融機関論	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済学科	□必修　■選択
				□必修　□選択
英文表記	The theory of FIMs	開講年次	□１年 ■２年 □３年 □４年	
ふりがな	あきたけんしんようくみあい　やまもとしゅん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	秋田県信用組合　　山本　俊	修得単位	2 単位	
授業の到達目標及びテーマ	金融機関の主要な役割は資金供給と同時に情報生産活動にある。この情報生産の側面を学習し、金融機関の役割を貸す側の視点から理解できるようになること。			
準備学習	①　預金を扱う金融機関の業務の概要を事前に調べておくこと。 ②　授業の復習は必ずその日に行うこと。			
【授業概要】	銀行の情報生産活動に注目し、情報の非対称性や規模の経済性に注目する。例年、秋田信用組合様より講師をお招きし、実務家の視点から講義して頂いている。貴重な機会であるので、多くの受講生を期待する。			

授業計画
第１回　テーマ：金融機関の種類と役割（講義資料配布）
第２回　テーマ：日本の銀行の現状（講義資料配布）銀行の定義と推移、銀行の貸借対照表と損益計算書
第３回　テーマ：銀行の情報生活動①（講義資料配布）　モニタリング、スクリーニング、情報の非対称性
第４回　テーマ：銀行の情報生産活動②（講義資料配布）情報の再利用可能性、規模の経済性
第５回　テーマ：銀行業の情報生産活動③（講義資料配布）平均費用曲線と銀行間合併の経済学的根拠
第６回　テーマ：情報の非対称性と信用割当（講義資料配布）逆選択
第７回　テーマ：銀行発達史①（講義資料配布）鎌倉時代から終戦まで、
第８回　テーマ：銀行発達史②（講義資料配布）戦後日本の金融制度の特徴、利益相反
第９回　テーマ：銀行発達史③（講義資料配布）メインバンク制度
第 10 回　テーマ：信用組合講師による講義①　昨年度の講義テーマは「信用組合とは」
第 11 回　テーマ：信用組合講師による講義②　昨年度の講義テーマは「信用組合の実際の仕事」
第 12 回　テーマ：信用組合講師による講義③　昨年度の講義テーマは「信用組合の地域社会における役割」
第 13 回　テーマ：銀行預金とデリバリーチャネル（講義資料配布）店舗網や ATM は重要か？
第 14 回　テーマ：部分準備制度と信用創造機能（講義資料配布）店舗網や ATM は重要か？
第 15 回　テーマ：銀行の市場規律（講義資料配布）バンク・ラン、預金保険制度、自己資本比率規制
第 16 回　期末試験（試験範囲：第１回から第 15 回）

テキスト	なし。配布する講義資料。
参考文献	① 筒井義郎編『金融分析の最先端』東洋経済新報社、2000 年 ② 藪下史郎『中小企業金融入門』(第 2 版)東洋経済新報社、2006 年
評価の方法	期末試験 60%、課題(確認問題)30%、出席状況 10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。
学生へのメッセージ	いかなる分野で活躍するにも、金融機関との関係は長く続く。よって、金融機関の重要な機能である情報生産の側面を理解しておくことは有用である。

平成２６年度　シラバス

科　目　名	国際経済学Ⅱ	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択
英文表記	International Economics Ⅱ	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年
ふりがな	まえだ　なおや	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中
担当者名	前田　　直哉	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕国際収支と為替レートの基礎理論を理解する。 〔テーマ〕国際収支と為替レート		
準備学習	講義前に予習、講義後に復習を必ず行うこと。		
【授業概要】	21 世紀に入り、経済のグローバリゼーションが急速に進んでいる。この現象を理解するためには、国際経済学の理論のみならず、その歴史･制度についても学習することが必要である。本講義の目的は、国際貿易と国際通貨の基礎理論を中心に学ぶことにある。		

授業計画
第１回　ガイダンス～世界貿易体制と国際通貨システム
第２回　国際貿易の基礎理論①：アダム･スミスの絶対生産費説
第３回　国際貿易の基礎理論②：リカードの比較生産費説
第４回　国際貿易の利益①：完全競争市場の厚生分析
第５回　国際貿易の利益②：自由貿易の厚生分析
第６回　完全競争と貿易政策①：貿易政策の手段
第７回　完全競争と貿易政策②：小国開放経済下の関税政策の効果
第８回　不完全競争と貿易政策①：不完全競争市場の厚生分析
第９回　不完全競争と貿易政策②：小国開放経済下の関税政策の効果
第 10 回　中間試験
第 11 回　国際通貨システム：国際通貨国と周辺国の非対称性
第 12 回　国際通貨システムの変遷①：国際金本位制
第 13 回　国際通貨システムの変遷②：再建金本位制と通貨ブロック
第 14 回　国際通貨システムの変遷③：IMF 体制
第 15 回　国際通貨システムの変遷④：ドル体制と世界金融危機
第 16 回　定期試験

テキスト	適宜、レジュメを配布する。
参考文献	特になし。
評価の方法	定期試験、中間試験、平常点
学生へのメッセージ	講義の進め方と成績評価方法については、初回のガイダンスで詳しく説明するが、特に講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては、然るべき処置を取る。

平成２６年度 シラバス

科　目　名	サ　ー　ビ　ス　・ マーケティング論	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
				□必修　□選択
英文表記	Service Marketing	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	すずき　ひであき	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	鈴木　秀顕	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕サービスに関する特殊性の理解とそのマーケティングに関する基礎知識の獲得 〔テーマ〕サービス・マーケティングに関する基礎知識を理解する			
準備学習	テーマに関する予習をしてから参加するようにしてください。			
【授業概要】	私たちの生活は、次第にモノの流通からコトの流通へと変化していっています。その流通を促進させるためにマーケティング手法が考えられてきましたが、コトのマーケティングは目に見えないものを流通させるため、特性に違いがあります。その特性を理解し、コトのマーケティングの手法を学んでいきます。			

授業計画	
第１回	ガイダンス（サービス・マーケティングの基礎）
第２回	顧客経験マネジメントの枠組み
第３回	情報化社会のマーケティング
第４回	サービス行為の計画
第５回	サービス環境のデザイン
第６回	人的要素の活用
第７回	サービス顧客の行動
第８回	サービスの価格設定
第９回	双方向型サービスのプロモーション
第 10 回	サービス品質の保証
第 11 回	顧客サービスとそのリカバリー
第 12 回	サービス調査
第 13 回	サービス・マーケティングの戦略策定
第 14 回	サービス需要への対応
第 15 回	サービスと文化
第 16 回	テスト

テキスト	フィスク／グローブ／ジョン『サービス・マーケティング入門』（法政大学出版局）
参考文献	適宜プリント配布します
評価の方法	テスト 50%、レポート 20%、出席 30%の割合で評価。
学生への メッセージ	出席、積極性を重視します。

平成２６年度 シラバス

科　目　名	現代ファイナンス論 II	科目分類	■第１グループ　□第２グループ	
			経済学科	□必修　■選択
				□必修　□選択
英文表記	Theory of Modern Finance II	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	やまもと　しゅん	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	山本　俊	修得単位	2 単位	
授業の到達目標及びテーマ	自らが直面するファイナンスに関する課題に対して、学習したことを基にして主体的に考えることができるようになること。			
準備学習	高校数学（特に、数列、極限、分散）の復習。ただし、前提とはせずに、授業でもその都度説明するので、苦手な受講者はこの際に理解することを期待する。			
【授業概要】	現代ファイナンス論Ｉの学習内容を深めて、より専門的かつ実践的に学習する。ファイナンスで多用される手法に慣れるため、定期的に課題（確認問題）を与えるので、解答後に提出して欲しい。			

授業計画
第 1 回　テーマ：ファイナンスの面白さ（講義資料配布）モラル・ハザード、リスクヘッジ、行動と心
第 2 回　テーマ：投資の評価方法①（講義資料配布）収益率の比較か？それとも初期投資額の比較か？
第 3 回　テーマ：投資評価方法②（講義資料配布）n 期間を想定した 2 つの評価方法
第 4 回　テーマ：投資の評価方法③（講義資料配布）内部収益率法と正味現在価値法
第 5 回　テーマ：投資の評価方法④（講義資料配布）ゴールシークを用いた計算方法
第 6 回　テーマ：株価決定モデル①（講義資料配布）一定成長 DDM
第 7 回　テーマ：株価決定モデル②（講義資料配布）株価マネージメントとインサイダー情報
第 8 回　テーマ：リスク管理①（講義資料配布）リスクの定量化
第 9 回　テーマ：リスク管理②（講義資料配布）リスクの定量化（続き）
第 10 回 テーマ：リスク管理②（講義資料配布）リスクの定量化（続き）
第 11 回 テーマ：リスク管理③（講義資料配布）不確実性下の投資決定行動
第 12 回 テーマ：リスク管理④（講義資料配布）ポートフォリオの期待収益率とリスク
第 13 回 テーマ：リスク管理⑤（講義資料配布）2 パラメータ・アプローチ
第 14 回 テーマ：リスク管理②（講義資料配布）最適ポートフォリオの考え方
第 15 回 テーマ：リスク管理②（講義資料配布）CAPM モデルの考え方
第 16 回　期末試験（試験範囲：第 1 回から第 15 回）

テキスト	講義資料を配布する。以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 ボディ・マートン『現代ファイナンス論』(改訂版)ピアソンエデュケーション、2000 年
参考文献	釜江廣志　他『証券論』有斐各ブックス、2004 年
評価の方法	期末試験 60%、課題(確認問題)30%、出席状況 10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。
学生へのメッセージ	第 11 回目以降では、複雑な理論についても言及する。受講者の積極的な学習姿勢を期待する。ただし、数式の厳密な展開よりも、考え方をより重視する。

平成２６年度シラバス

科　目　名	**地域経済政策論（地域の経済政策）**	科目分類	■第１グループ　□第２グループ 経済　□必修　■選択
英文表記	Regional　Policy　of　Economy	開講年次	□１年　□２年　■３年　□４年
ふりがな	のぐち　ひでゆき	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中
担当者名	野口　秀行	修得単位	**２　単位**
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策 〔テーマ〕地域経済の優勝劣敗		
準備学習	・常に復習しておくこと		

【授業概要】なぜ過疎が進むのか？なぜ都市と地方との間に経済格差が生まれるのか？経済のグローバル化がなぜ地域経済を疲弊させているのか？これらの問題を解決していくためには、地域の経済政策は、どうあるべきなのかについ学ぶ。

授業計画	
第１回	地域経済の活性化方策～日本経済の行方と地方経済
第２回	産業構造転換と地域経済～浜松に見る地域の産業政策
第３回	地域経済と産業インフラ整備（１）～東北地方の鉄道・港湾・空港・高速道路
第４回	地域経済と産業インフラ整備（２）～東北地方の知的インフラ・大学
第５回	平成の市町村合併と地域経済の変容～道州制・地方分権・地方税制
第６回	産官学連携とインキュベーション～地域経済の再生に大学の果たした役割
第７回	マイケル・ポーターの産業クラスター論
第８回	９０年代米国におけるクラスター形成
第９回	わが国における地域クラスター形成～地方経済を支える科学技術の系譜
第 10 回	東日本大地震と東北の先端産業
第 11 回	創造化時代・知識経済への転換（１）
第 12 回	創造化時代・知識経済への転換（２）
第 13 回	秋田の産業政策～環日本海経済連携・中国東北部・ロシアシベリア地区との経済連携
第 14 回	秋田のリーディング企業～世界的な高シェア企業・世界最先端の技術
第 15 回	創造化時代・知識経済への転換と秋田～秋田は生き残れるのか
第 16 回	期末試験

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。
学生へのメッセージ	経済を面白く楽しく学びます

平成２６年度シラバス

科　目　名	企業財務論	科目分類	■第１グループ□第２グループ	
			経済	□必修　■選択
				□必修　□選択
英文表記	Corporate Finance	開講年次	□１年　□２年　■３年　□４年	
ふりがな	イ　　チョン　ミン	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	李　　廷　　珉	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕企業経営を数字でとらえ経営の中で論理的な意思決定を行う 〔テーマ〕グローバルビジネスの共通言語			
準備学習	予習すること、新聞を読むことが望ましい。			

【授業概要】本講義では、「収益」という根本的なテーマを扱います。学生諸君には、企業会計の基礎と財務報告書の重要性を理解する能力を身につけていただきます。経営分析や組織の行動と関連付けた数値解釈を説明するなかで、学生諸君は完全なビジネス・投資判断を行うプロセスを見抜けるようになるでしょう。また、この講義ではシステムアプローチという考え方を導入するため、経済学の原理についての学習も可能になります。これによって、学生諸君はビジネスチャンスに直面した際に、マクロ・ミクロ環境における要因を評価する方法を知ることになります。どんな企業も、あるいは業界や国家も、単独に活動しているわけではありません。それぞれが互いに分かちがたく結びついています。一見すると、そのつながりは目には見えないかもしれませんが、互いに接触しあい互いの成果に影響を与えています。この講義では、企業経営のなかのファイナンスの重要性、これについて解説します。

授業計画
第１回　イントロダクション
第２回　マネジメントにおけるファイナンスの役割
第３回　貨幣の時間的価値
第４回　キャッシュフロー
第５回　キャッシュフロー
第６回　リスクと資本コスト
第７回　リスクと資本コスト
第８回　リスクと資本コスト
第９回　投資の意思決定
第 10 回　投資の意思決定
第 11 回　企業価値
第 12 回　企業価値
第 13 回　企業価値
第 14 回　資本構成と配当政策
第 15 回　資本構成と配当政策
第 16 回　期末試験

テキスト	講義資料を配布する
参考文献	講義の中で紹介する
評価の方法	定期試験＋授業態度（発言カード:3 分の 2 以上の出席が単位認定の条件）
学生へのメッセージ	人は本をつくり、本は人をつくる。